

◆ タイトル ◆

「Meet the スポーツドクター!! ～総合診療とスポーツ医学」

担当講師 水戸地域医療教育センター 総合診療科 小林裕幸
(サポート 筑波大学附属病院 総合診療科 高屋敷明由美)

◆ 内容の概要 ◆

スポーツドクターが身につけるべきスキルについて、レクチャーとロンドン五輪の事例を用いたグループ討論を通して学んだ。さらにスポーツドクターになるための研修について、総合診療の研修を基本としたプログラムが有用であることが示された。

◆ 総合診療医にいかに関与するか ◆

筑波大学には、スポーツドクターを目指す医学生が少なくないが、身近なロールモデルがないため、具体的にその分野の学びを深め具体的なキャリアプランをたてることができない。今回の企画により、参加者に対して説得力をもってスポーツドクターに必要なスキルは総合診療が核になっていることが共有され、具体的な将来のキャリアをイメージして、その希望を強くすることにつながった。

◆ 内容の詳細 ◆

1、全体スケジュール

導入（講師自己紹介、グループワーク：スポーツの経験と本セミナーに参加したきっかけ）レクチャー スポーツドクターへの道

事例検討 2 例

ロンドン五輪の自転車競技で実際に起きた事例

1：競技中の事故への対応

2：日本チームで腰痛を発症したメンバーへの対応～アスリート生命をかけて痛みをおして出場させるか？

まとめのレクチャー スポーツドクターとしてのキャリアを進めるために

時間	内容
17:30-17:50	導入
17:50-18:30	レクチャー
18:30-19:15	事例検討 2 例
19:15-19:30	まとめのレクチャー



2、内容

スポーツドクターに必要なスキルというと、整形外科的な側面に目がいきがちであるが、実際にはそれに加えて、個々のアスリートとそれを囲むチーム全体をみわたして、問題の抽出とマネージメントを行ういわば「患者中心の医療」のアプローチを行える必要がある。

内科的な問題のマネージメントを中心として、メンタル面、整形外科その他、総合診療の



能力を活かすことが求められている。レクチャーとロンドン五輪の自転車チームでおきた実際の事例を用いたグループ討論を通し、参加者はスポーツドクターに必要なスキルを理解することができた。さらにスポーツドクターになるための研修について、総合診療の研修を基本として、整形外科などの研修をくわえたフェローシッププログラムが有用であることが示された。

◆ 参加者の声 ◆

スポーツドクターの役割は、スポーツの場面での総合診療を行うことで、コーディネート機能が鍵になることがよくわかった。



初めて実際のスポーツドクターと出会うことができ、本当によかった。セミナーから具体的に自分の夢をどのように実現していくといいのか分かり、嬉しかった。

◆ 講師からのコメント ◆

参加者がとても熱心に討論してくれて、嬉しかった。双方向性をもって、進める形もよかったと思う。「スポーツドクター」が総合診療の専門性を活かせるものであることを参加者にわかってもらえた。医学生からこんなにニーズがあることも改めてわかり、今後の企画につなげたい。



